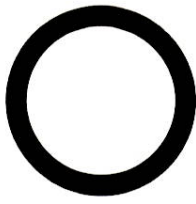


前橋まえばし

市章のいわれ
前橋市の市章は旧藩主松平氏の馬印「輪貫」からとったもので、明治42年に制定されました。これは旧藩主にゆかりの深いことと、平和を意味する大きな輪（和）が、発展する前橋に最もふさわしいということから、きめられたといわれます。



市章

前橋の歴史

過去の蓄積の上に、
輝かしい明日をめざして……

明治二十五年四月一日、前橋市が市制を施行してから、ことしでちょうど八十年となりました。このながい歴史と伝統、そして現在みられるような躍進の姿も、一朝にしてできたものではありません。ひたすら、そのときどきの、市民のみなさんのたゆみない努力の蓄積によって成し得たものです。ひととち八十年といいますが、この間、幾多の変遷と試練があり、いま、当時の十九倍の市域と七倍の人口を擁し、大前橋のスタートがきられています。——さて、ふりかえって見れば、現在もまた歴史のひとコマです。古きを知ってこそ、今日の新しい時代が理解できるものと思われまします。この市制施行八十年を契機に、今日までの「前橋の歴史」を、みなさんと一緒にふりかえってみましょう。



日輪寺の十一面観世音像
(県指定重要文化財)

として保存しておいてください いつかまた お役にたつことと思います

市制施行前の前橋

原始・古代のころ 赤城南麓における人びとの歴史は、数千年前の無土器時代にはじまっている。赤城・榛名・利根川の大自然に恵まれた前橋市は、東北部の段丘地帯に早くから縄文文化をもつ人々が住みつき、やがて、弥生式文化の農耕生活に入ると平地は恰好の地として開発され、次の古墳文化時代には東国の中心地として栄えるようになった。このころ、赤城南麓は上毛野氏の支配下であったと考えられ、その中心は城南地区であったと推定される。上野二之宮赤城神社を奉じたこの一族は、やがて利根川をわたり、朝倉公（上川淵地区）有馬公（総社町地区）などが文獻にあらわれてくる。これらの豪族が残した文化は四世紀前半ごろの天神山古墳（後閑町）をはじめとして、西大室の三つの二子山古墳、天川二子山古墳、総社二子山古墳など知ることができよう。

後閑天神山古墳出土 二禽二獣鏡
は160点以上におよび、とくに鏡5面は、まだ全国でも出土例を見ないものといわれます。上の写真は「二禽二獣鏡」といって、出土品のなかで最も貴重なもので、二つの鳥とケモノがえがかれています。（一部を除いて出土品は児童文化センターに展示されています。）

広瀬団地の造成に伴い、昭和43年7月から44年8月まで、数度にわたって発掘された「天神山古墳」は、四世紀初めごろの構築と推定され、恐らく東日本最古の前方後円墳と認められる貴重なものです。巨大な粘土槨、出土された白銅鏡、やじり、鉄製太刀、剣、斧碧玉、壺型土器などの副葬品

大化元（5年）（六四五～九） 大化の改新により各国に国司郡司が置かれ、その役所を国府と称した。上毛野国の国府の遺跡と推定されるものが、元総社地内にある。
白雉元年（六五〇～六八五） 総社二子山古墳、愛宕山古墳、天川二子山古墳、朝倉の八幡山古墳、塩原塚古墳など、このころの築造と推定される（七世紀中）。このころ戸籍ができた班田取法が定められる。旧市之坪町の町名は条里制の名残りといわれる。
大宝元（701～三） 不二山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳、山玉塔跡などこのころのものとして推定される（八世紀初）。
和銅6年（七一三） 上毛野国を上野国と改めたといわれる。
天平13年（七四二） 諸国に命じて国分寺国分尼寺が建てられた。上野国分寺の遺跡は元総社町と群馬町とにわたって史跡となっている。
天平14年（七四二） 蒼海明神に国内十四郡の

総数五百四十九社を奉招して総社大明神と改称する。
天平感宝元年（七四九） 上野国の防人（さきもり）が筑紫にむかう。これらの防人などがよんだ上野の歌が万葉集に見える。
弘仁2年（八二二） 南橋の日輪寺建立という。
承和6年（八三九） 「赤城」の名が純日本後記巻八にみえる。最も古のものと思われる。
長保元（999）（一〇〇三） このころ荘園がおかれ御厨（みくりや）ができる。細井御厨、青柳御厨ができる。
万寿4年（一〇二七） 国分寺兵火で焼失といわれる。（または治承4年ともいう）
治承4年（一一八〇） 総社地方兵火にかり山王の日枝神社もこのとき焼失といわれる（この地方は千葉氏の支配下であり、千葉常胤が頼朝に味方したため、平家方の足利太郎俊綱に焼き払われたといわれる）。
仁治4年（一二四三） 端氣町善勝寺田園宝鏡造阿弥如来座像つくられる。
応永元（一三九四）（一四二七） このころ天川大島、上大島、女屋、長磯、下大島などの各部落にあたる。しばしば利根川の水に荒されたといわれている。利根川は連雀町から細井にわたって流れていたが、このころ、現在のように変流したという。
文明元（一四六九）（一四八六） 厩橋城、この頃築城といわれる。風呂川はこの築城の際につくられたもの。広瀬、桃木両川は古い頃つくられたものという。
延徳元（一四八九） 上杉の臣、厩橋城主固山宗賢（長野左衛門尉）厩橋城主となる。
享禄元（一五二八）（一五三二） 利根川大洪水。
天文元年（一五三二） 長野道安厩橋城主となり、その子道賢が次の城主となる。
天文8年（一五三九） 9月利根川大洪水。
天文12年（一五四三） 利根川大洪水。利根川は、古くは現在の市街地の中央を北西から南東に流れていたが、天文8年と二回の大洪水によって完全にいまの流れに変わったといわれる。
天文21年（一五五二） 長尾景虎（上杉謙信）厩橋城を攻める。
弘治元（一五五五）（一五五七） 北条氏康厩橋城へ入城。
永禄2年（一五五九） 長尾景虎（謙信）再び厩橋城を攻めてこれを陥し、従弟の長尾景連入道謙忠を城主にした。
永禄3年（一五六〇） 10月長尾景虎（謙信）越後から憲政を厩橋城に招き、本城に憲政二の丸に謙信が住んだ。
永禄4年（一五六二） 長尾景虎（謙信）厩橋城で関東将士の年賀を受ける。
永禄5年（一五六三） 北条氏邦二万の軍勢で厩橋城を攻める。このとき長尾謙忠は参加せず景虎のため切腹させられる。

永禄8年(一五六五) 武田信玄の大軍により、着海城攻撃され落城、焼き払われる。
 永禄9年(一五六六) 総社明神の本殿、拝殿等兵火にかり焼失。
 永禄10年(一五六七) 北条・武田の両軍、既橋城を攻め、当時既橋の中心であった六供、天川等が焼かれ、その後町は低地へ移る。
 元龜2年(一五七二) 既橋城主北条丹後守高広は父北条下総守高定の土地寄進状とともに諸役免許状を八幡宮の全運坊あてに出している。総社明神再建される。
 天正10年(一五八二) 信長の命により滝川一益、益岡東に入り既橋城に入城。信長死後、一益は北条氏政に敗れ、氏政の子氏直が既橋城を守る。

平岩親吉既橋城主に

天正18年(一五九〇) 家康が関東八ヶ岳を治め、平岩主計頭親吉を既橋城主とし三万三千石を与えた。
 文禄元年(一五九二) 諏訪小太郎家康より二万七千石を与えられ総社を支配する。

酒井氏の時代となる

慶長6年(一六〇一) 既橋城主平岩親吉甲斐に移り、関ヶ原の功によって酒井河内守重忠城主となる。総社城主諏訪氏本国の信濃国に帰り、秋元長朝城主となる。竜海院を三河国より移す。
 慶長7年(一六〇二) 天狗岩用水および分流の五千石用水の工事はじまる。(慶長9年に完成。同年総社城の築城に着工、慶長12年に完成する)
 元和2年(一六一六) 徳川氏利根川に大渡と実正の関所を設ける。大渡は当時渡船で河原町(現岩神町)は船頭町とも呼んだ。
 元和3年(一六一七) はじめて初市がひらかれたといわれる。既橋城主酒井忠世となり八万五千石、老中職。

元和8年(一六二二) 酒井忠世二万六千石加増。後ついに十二万二千五百石となる。総社城主秋元長朝隠居し、子泰朝後を継ぐ。
 寛永13年(一六三六) 秋元泰朝日光東照宮の造営奉行に任せられた。(日光東照宮造営費は幕府からの支出黄金五十八万八千両、銀百貫、米千石) 3月、既橋城主酒井忠行となる。11月、酒井忠行十八歳で逝く。
 寛永14年(一六三七) 酒井忠清既橋城主に。
 慶安2年(一六四九) 城主酒井忠清の土地安堵状に「上州群馬郡前橋神宮寺八幡領」とあり、この頃すでに前橋の名がみられる。
 万治元年(一六五八) 竜海院火災のため岩神から現在地の紅雲町へ新しく建てる。

寛文3年(一六六三) 総社領主安藤出雲守の専政にたえかねて農民の勝訴となったので熊谷頼朝の加護なりとして熊谷頼朝を勧請して総社の新田に頼朝神社を建立する。
 寛文4年(一六六四) 幕府の間に對し前橋藩の地理を報告。これによると、上野国前橋城より江戸日本橋へ二六里三二町、高崎へ二里二町、碓氷峠へ九里四町、沼田へ九里一町とある。前橋から江戸へは、天川一駒形一五料。沼田へは旧向町の西端一広瀬川沿一南橋(沼田街道)。鎌倉街道は勝島一福島へ出る。
 寛文6年(一六六六) 酒井忠清大老となる。
 寛文9年(一六六九) 全国的に樹の改正があり「前橋へも二万ほど船便にて到着す」とある。

「既橋」を「前橋」に

天和元年(一六八一) 酒井忠清逝き、酒井忠準既橋城主となる。「既橋」を「前橋」と改める。(酒井忠準は延宝9年即ち天和元年から宝永4年まで城主だったが、この間のこと)
 天和2年(一六八二) このころ駒形が宿駅となり、伝馬所、問屋、本陣などが設けられたといふ。
 天和3年(一六八三) 本町に前橋市場を開き毎月四・九の日を定日とし生糸の取引を行なう。正月九日の初市は「だるま市」として現在も残る。前橋本町の上・中・下三か所に代々市を立てるよう仰せ付けられた。願により連運町にも二・七の日に市が立つようになったといふ。

貞享元年(一六八四) 藩主酒井氏の儒臣古市剛、主命により「前橋風土記」をつくる。
 貞享3年(一六八六) 幕府沼田領分を農民の請願により既橋城主に命じ再検分させる。当時実正の渡し賃は奉公人の外歩行渉り代五文であった。
 元禄5年(一六九二) 上野各藩にさきがけ藩学校好古堂を創設し藩士の子弟を教育。
 元禄12年(一六九九) 8月15日午後五時から夜半にかけて強風吹く。倒壊五、二七六軒、死者八名、藩士の家が三八軒倒れる。当時まれな風害であった。
 宝永4年(一七〇七) 酒井忠相家督を継ぐ。
 宝永5年(一七〇八) 酒井親愛、家を継ぐ。
 享保5年(一七二〇) 酒井親木、家を継ぐ。
 享保16年(一七三三) 酒井忠恭城主となる。
 元文5年(一七四〇) 酒井忠恭、大阪城代を命ぜられ、大阪に赴く。
 寛保元年(一七四一) 利根川大洪水。西側城

礎を崩壊する。
 延享元年(一七四四) 酒井忠恭、大阪より江戸に帰り、この年老中となる。

松平氏が城主となる

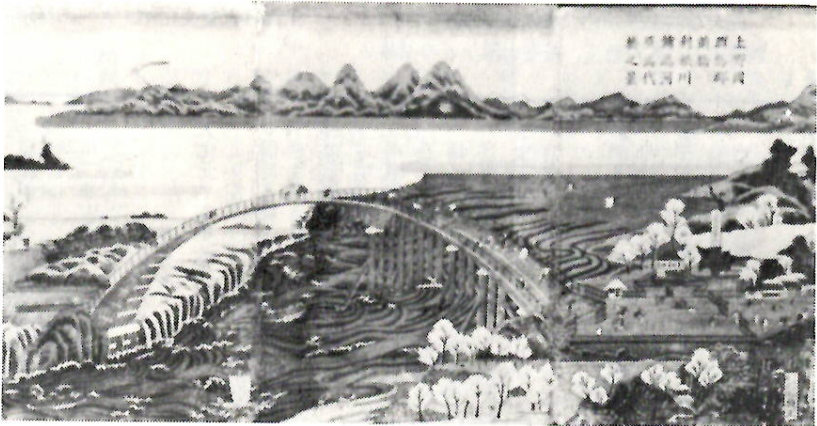
寛延元年(一七四八) 酒井忠恭既橋城主となり、松平大和守朝矩姫路より既橋城主に。
 寛延2年(一七四九) 酒井忠恭姫路に前橋通りをつくり、前橋好古堂と称して開校。
 宝暦6年(一七五六) 前橋城下足輕屋敷より出火、足輕屋敷三四二軒、町屋敷三軒焼く。
 明和元年(一七六四) 紺屋、一毛、堅、横山立川、榎、桑、芳町の六二二軒を焼く(全町七八四軒の内) 寺院九、神社二も焼失。

城流失、城主川越に移る

明和4年(一七六七) 松平大和守朝矩川越に移る。利根川の浸蝕甚だしきによる。そのため前橋は年々人口が減り、戸数八百余軒となる。慶応三年帰城まで百年間、前橋に城主おらず。4月1日侍屋敷から出火、五か寺、五八六軒を焼く。
 明和7年(一七七〇) 3月7日立川町から出火、紺屋・榎・本・相生・片貝・中川・芳・横山・連雀・萱町など四一軒を焼く。
 安永元年(一七七二) 他領へ相撲・操り人形見物に行くことを藩で禁止。
 安永3年(一七七四) 元総社積善寺住職泰亮和尚「上毛伝説雑記」十五巻を著す。(前著十巻を焼失したので再度の執筆)
 安永5年(一七七六) 11月天狗岩用水を開いた城主に対する農民感謝の碑「力田遺愛の碑」建つ。県指定史跡で総社光蔵寺内に。
 安永9年(一七八〇) 向町で出火、四八二軒を焼失。この頃、前橋の民政は町奉行の下に町年寄二名をおき、各町に名主、組頭があつて運営されていた。

浅間山大噴火、飢饉

天明3年(一七八三) 7月8日浅間山大噴火のため多量の降灰あり、熔岩と泥流が吾妻川から利根川に流入、川が堰止められた。このため総社から新堀村にかけて各村で泥流のため水害を受け、下川淵では小さい家の人々は大きい家の二階へ逃げ、馬は座敷へ引き上げた。各部落は泥入りのため交通杜絶。10月、この年冷害により農作物不作で飢饉となる。前橋も打撃し騒動起こる。
 寛政2年(一七九〇) 藩主松平直恒の発意で社倉貯穀令を出す。
 寛政7年(一七九五) 上泉郷滅火災で焼失。
 寛政8年(一七九六) 上泉郷滅火災で焼失。
 文化4年(一八〇七) 前橋八幡宮で地震、



元治元年にできた万代橋(明治元年流失のもの)

文久3年(一八六三) 前橋城再築に着工。
 元治元年(一八六四) 大渡(現前工高の南西)に万代橋という太鼓橋架橋。長さ50メートル。
 慶応3年(一八六七) 前橋城完成。(人夫のべ七万四千人) 藩主松平直克川越より前橋に移る。

明治時代

廃藩置県・県庁前橋に

慶応4年・明治元年(一八六八) 上野国は岩鼻県に入る。県内九藩中前橋は最高の十七万石。藩主は松平直克。利根川大洪水、大渡の万代橋四年で流失。藩治職制で前橋藩庁を設ける。
 明治2年(一八六九) 藩庁に鎮民・沢民・會計の三局を設ける。名主を廃す。藩庁をさらに議政局・総教局・民政局・会計局とした。イタリーのデ・ラ・トール伯爵夫妻一行参事業視察のため前橋に来る。6月版籍奉還で藩主が知藩事となる。
 明治3年(一八七〇) 藩の人口等を兵部省に報告(当時藩の人口一七四、三九八)。スミス人ミウラーを招き田細ヶ沢に機械製糸場を設ける(わが国機械製糸のはじめ) 前橋藩直営の前橋製糸場を岩神親民に新築。
 明治4年(一八七二) 廃藩置県で前橋藩は前橋県となる。旧藩主を知事とする。諸県統合により11月第一次群馬県生まれる。県庁は高崎旧城内に。始めて芸妓お目見え、堅町の娯野で東京から二人を抱えて来る。
 明治5年(一八七二) 大小区制施行、県下二十三大区に分けられる。6月15日県庁を高崎から前橋に移す。10月前橋郵便所が設置される。学制制定され、小学校は人民の学ばべきものとされる。8月12日群馬裁判所できる。群馬第一番小(後の既橋小) 曲輪町に県下初の小学校としてできる。

前橋熊谷間に馬車鉄道

明治6年(一八七三) 前橋・熊谷間の馬車道改修を願い出る。小字教員伝習所(師範学校の前身) 神明町源英寺内に設立。5月15日前橋熊谷間の馬車鉄道竣工(十一里二一町馬車は五時間九六銭) 群馬・入間の両県を廃し熊谷県とし、県庁を現熊谷市に置く。前橋の群馬県庁は熊谷県の支庁となり次いで高崎に移る。
 明治7年(一八七四) 3月21日本町から出火相生、片貝町など二二戸を焼く。下村善太郎一台八百円の洋式腕用ポンプ二台を買入れ寄付。洋式ポンプの始め。種痘施行心得書。県から布達。

横浜開港、前橋の「提系」出す

安政6年(一八五九) 横浜開港にともない前橋の「提系」をはじめ横浜に出す。
 万延元年(一八六〇) 公田村利根川渡船の記録あり、その後公田、萩原、横手に渡船ができる。
 文久2年(一八六二) 有馬直克幕府の許可を得て松平家を継ぐ。川越城に入る。藩主松平直克、前橋町民の帰城嘆願書に基づき前橋城築城の許可を幕府に乞う。

文明開化の風しきり

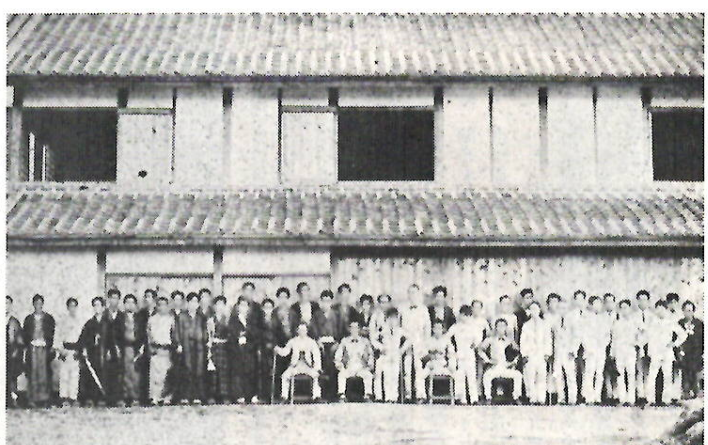
明治8年(一八七五)私立英学校設立。このころ馬場通りに西洋料理店・撞球場・牛鍋屋ができ、文明開化の風しきり。現中央児童遊園のところに赤城牧場あり、搾乳所はじめて開設。

明治9年(一八七六)県内にはじめて銀行ができたのが、この年の十一月の第二銀行支店である。9月1日熊谷県を廃し、再び群馬県となる。東毛三郡(新田、邑楽、山田郡)を併せ現在の群馬県ができる。飯沼を高崎安国寺に置く。9月29日飯沼前橋に移転を完了、開庁する。熊谷裁判所支庁を前橋町におく。町の廃合行なわれる。前橋監獄が設置(この時県庁裏にあり、のち一毛村に移る)される。

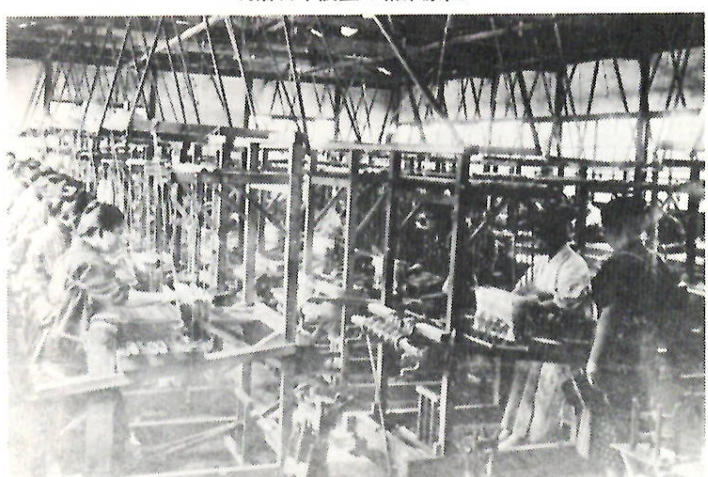
明治10年(一八七七)1月区庁は取締所、見廻方、警保出張所、巡査屯所と変わり群馬警察第一号出張所となった。2月10日前橋警察署となる。(地名を冠した)萩原の渡しを廃し舟橋に改める(舟十二艘を使用)その後また渡し舟となる。2月県立医学堂を前橋に新築移転。7月前橋II伊勢橋II東京に達する道路を国道第三等級に指定。8月前橋在住の土族相謀り製糸会社交水社を創立。前橋の土族で座繰製糸改良申合規則を定め、精糸会舎を組織する。第一七番中学利根川学校創立(前橋高等学校の前身)10月15日前橋と高崎に電信分局ができ通信開始。前橋に電信柱が立てられたのはこのとき。11月24日県下から従軍した西南戦没殉難者の霊を祭るため、公園東照宮裏に屍橋招魂社をつくる。



明治11年明治天皇行在所となつた生糸改所(火災で焼失)



明治11年設立の精糸原社



生糸はなやかなりし頃の織物工場の内部

明治11年(一八七八)6月24日前橋降臨正教会生まる(後の前橋正教会)。7月郡区町村編成法が施行され大小区の制度を廃止、これにより前橋は広瀬川を境として南勢多郡と東群馬郡に属し、曲輪町、横山町、中川町、小柳町、才川町の五か所に連合戸長役場を置く。8月4日群馬師範学校、曲輪町の新校舎(現桃井小の北)に移り、群馬県尋常師範学校となる。9月3・4日明治天皇北陸東海御巡幸の途次当市に行幸、前橋生糸改所(旧群馬銀行のところに記念碑がある)にお立寄宿泊。翌日県庁、衛生所医学校、現群馬会館のところに現師範学校などに行幸。明治天皇土石倉林倉寺で御小休の後奥に乘られて宇佐美橋を御通過。明治初年田藩土佐佐美某曲輪の渡しに宇佐美橋という貨取橋を架設したが舟橋であったであろう。これもしばしば流失。この当時宇佐美橋は舟橋であった(その後明治二十八年曲輪橋となる)。11月行政区画の改正により上沖之郷を分離し小神明村を編入。11月5日堅町広間社から「群馬新誌」発行。県下新聞で二番目に古いもの、翌年四十七号で廃刊。11月12日第三十九国立銀行営業開始。12月「毎日電信物価新聞」発行。前橋女児学校本町に設立。座繰改良精糸原社設立。製糸工場昇立社立川町に設立。

明治12年(一八七九)3月9日実正の渡し(宗甫分町)にはじめて就安橋架設、長さ一七〇間、橋脚なく水面より七十尺の高さ工費三、五〇〇円。その秋流失。8月2日英照皇太后后香保行啓の御幸岩神村製糸場を視察。7月6日村に前橋田藩土佐らが前橋紡績所設立。天原社(製糸)設立。この年発疹チフス流行。

明治13年(一八八〇)2月10日工部卿東京II高崎II前橋間鉄道の建設着手の請願許可される(予算がなく数か月を遅る)。4月社会事業団体前橋積善会創立、6月1日第三国立銀行前橋支店(三井系)本町に設立。4月惣社町製糸場昇成社設立。12月1日県内の製糸業を合同し、上毛繭改良会社を設立。12月16日午後8時40分、前橋、高崎間電信(電報)全通。県会議事堂建築(後に焼失)。私学鳳鳴学舎(曲輪町、漢学)創立。天川村は天川原村と連合し、百軒町と大塚町が合併し、新町、片貝町、芳町、中川町が合併、萩村、国領村が合併それぞれ独立して前橋町から分離。また田町清王寺村、一毛村、岩神村も前橋町から分離する。

明治14年(一八八一)2月16日「群馬県庁位置を上野国前橋に改定候」と布告、ここに前橋に県庁正式布告となる。

前橋の飯沼が正式県庁となる。5月小学校教則綱領を出し小学科を初等(三年)中等(三年)高等(二年)の三等に分ける。6月1日前橋II波川間馬車再発、三十六銭。7月27日、8月10日、11日高崎町は県庁の前橋移転に反対し、千余人が県庁に押しかけ強訴する。師範学校に幼稚遊戯場を設ける。これが幼稚園のはじまり。

明治15年(一八八二)このころ地芝居再燃し各地で行なう。7月1日公立(準県立)女学校を元医学校跡に設立、師範学校の幼稚遊戯場を廃し、女学校内に幼稚科を設置。前橋始審裁判所を治安裁判所に改める。明治16年(一八八三)1月「上野新聞」(日刊紙)出る。5月1日桑町から出火折からの水切れで大火となる。本、連雀、曲輪、堅町の七三〇戸を焼失。曲輪町の鐘楼も焼失

明治17年(一八八四)3月鐘楼再建(現消防署の東、この時から神宮寺の鐘の時を報ずる)。8月20日前橋II東京間鉄道開通。(高崎から前橋まで汽車延長による)当時前橋停車場は利根に架橋ないため石倉町にあった。明治十三年に分断した町村を再び前橋に合併、連合して一戸長役場を置く。利根川に西洋式の橋がかかり、はじめて無賃で渡れるようになった(利根橋の前身)貨物運外二か村連合戸長役場を粟島町大神宮の伊勢殿におく。

政治団体上毛倶楽部本市で発会式を行なう。このころ紺屋町に米穀繭糸株式取引所あり。大沼から天然氷を切り出し。曲輪町に赤城湖水会社設立。

明治18年(一八八五)6月30日現在の利根橋のやや上流に西洋式の木鉄混合橋架設、ニューヨークの学界誌にも紹介される。長さ六〇〇フィート平水を抜くこと四〇フィート。二六、〇〇〇円の内に、市民負担一、〇〇〇円。工事担当は土木士小田川金六、金質橋といつた。これにより道路一変し、実正は全く廃れた。7月15日前橋監獄署宗甫分に新築のため起工。最初岩鼻監獄の第一支署が県庁裏にあり、別に芳町田圃の無縁寺跡に仮監があったが、飯沼は明治十二年に取りこわす。天然痘患者発生の際に赤紙を貼る。

明治19年(一八八六)4月初めて小学校令公布、尋常科四か年(義務教育)高等科四か年とした。コレ流行のため横山町外三六町村共有で上川淵朝倉に焼室と避病院を建てる(これが市営火葬場と伝染病院の前身)。上野教育舎群馬県教育会の前身(終戦後解散)設立。向町消防隊で最新のドイッ式腕用ポンプを買い入れ、その後逐次各町で買入れ、全市にいろは四〇組の自衛消防隊を編成。

明治20年(一八八七)3月28日小柳町から出火、七五一戸を焼く(俗にこんにやく屋火事という)。本町は下村善太郎が七年の罹災後建てた土蔵造り住宅で喰い止めたという。10月「上野新聞」と「群馬日報」合併して現在の「上毛新聞」を発刊。11月25日

明治21年(一八八八)1月前橋監獄三年継続事業で竣工。当時は県の所管。11月3日各小学校ではじめて天長節祝式を行なう。8月小柳町に劇場愛宕座を設立。後に柳座と改称、敷島座を立川町に設立。

明治22年(一八八九)4月1日町制施行、東群馬郡前橋町誕生(南勢多郡に属する五町六か村を編入、三七か町と四か村の各二部をもって発足)横山町に町役場を置く。4月1日日町村制施行により六供村外七か村全部と前代田村ほか四か村の各一部をもって上川淵村発足。4月1日白根村外八か村をもって下川淵村発足。4月1日上泉村外十二か村をもって桂宮村発足。4月1日箱田、後家八か村を合併し東村発足。4月1日下大島村外十三か村をもって木瀬村発足。4月1日植野村、高井村、総社町が合併し、総社町発足。4月1日野良大村外三か村をもって清里村発足。4月1日元総社、内藤分、大友、大渡の四か村をもって元総社村発足。4月1日五代外六か村を合わせ芳賀村発足。これにより、従来領村に属していた箕輪が富士見村に編入された。第一回町会を開く。8月前橋停車場から伊香保への新道路完成(現国道十七号線)この時まで細ヶ沢から向町を経て波川道であったが、この時細ヶ沢から北に向うこととなりこの方面発展す。竜藏寺村外五か村、日輪寺村外五か村、両連合全部ならびに群馬郡大久村外二か村連合のうち川原島新田を分割しこれらを合わせ南橋村発足。11月20日両毛線前橋II桐生間開通し小山II前橋間全通。12月20日両毛鉄道会社の利根川鉄橋工事(六五四フィート四インチ)を竣工。12月26日石倉の前橋駅を現在地に移し、始めて上野II小山間となる。

明治23年(一八九〇)7月第一回衆議院議員総選挙施行。7月12日上毛馬車鉄道会社設立、波川II前橋間認可され、岩神村に停車場をおく。12月24日道路問題で町長、助役に次いで町会議員総辞職となる。

明治24年(一八九一)高崎街道竣工。保岡申之「前橋繁昌記」を著す。

市制施行の請願書

市制施行の請願書

市制施行 80年のあらし

前橋の歴史

明治25年4月1日・前橋市がスタート

明治25年(一八九二) 4月1日市制施行、前橋市ここに誕生。全国四十一番目、関東では東京、横浜、水戸に次ぎ四番目。5月10日立川町敷島座を選挙場として三日間市会議員選挙を行なう。第一回の市会を開会、市長候補者に下村善太郎を選び、5月19日天皇の裁可を得て、



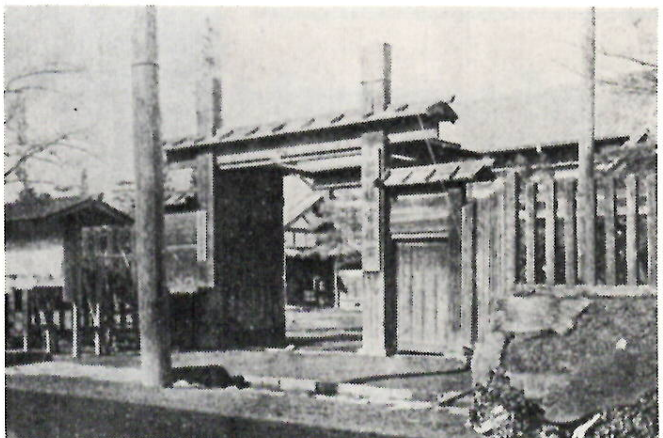
初代市長下村善太郎
24日市役所開庁、横山町の旧町役場(現矢端運動具店のあたり)をあてる。6月30日上毛孤児院(現上毛愛隣社)設立。

10月六供小学校を上川淵小学校から分離、上川淵第二尋常小学校となる。11月30日嶺分教場を独立し、嶺尋常小学校と称した。12月20日市内を三五区にわけ区長および区長代理者各一名をおくことを市会で議決。前橋公園を設ける。(師範学校附属運動場であった官有地の一部払下げを受けたものその後逐次拡張し現在に至る。)7月東群馬南勢多郡警察署は再び前橋警察署となる(現前橋郵便局の場所)。前橋市内で天然痘流行一名死亡。コレラ患者一名発生、この年始めて豚十五頭飼養される。県内に移入されたのは23・24年のこと。

曲輪町に市庁舎新築

天川大島に火葬室つくる

明治26年(一八九三) 1月1日区長制度を施行。3月16日前橋電灯株式会社本町に設立。総社町植野に発電を計画したもので水力では県下最初日本で四番目という。翌年点灯す。5月5日大降霜により桑園被害甚大。6月2日下村善太郎市長を辞任。6月4日下村善太郎病氣のため東京で逝く。7月20日曲輪町の市役所新庁舎落成、移転す。(現消防署の西)当時小学校跡であった。10月21・22日近衛師団小機動演習のため明治天皇臨江閣に宿泊される。12月屍体の焼室を木瀬村天川大島に移し、火葬室と改称。



当時の市庁舎(明治38年頃のもの)

明治27年(一八九四) 11月26日市会で前橋消防組織に関する意見書を提出、勅令発布とともに率先して消防組を実現(九部編成四九六名、各部ともドイツ製腕用ポンプ備付)各町村に消防組できる。師範学校付属小学校幼稚園科を廃止し、市営幼稚園とする。前橋電灯会社総社発電所(立石の天狗

岩用水立石橋下)完成。前橋にはじめて電灯がつく。桑町が率先してつけたという(大正年間までつづく)。この頃から市会は従来の夜間を改めるときは昼間に開会。明治28年(一八九五) 4月県立農事試験場岩神町に設立。(後、前代田町に移る)4月第二回市会議員選挙(定員三十名)。4月本町に点灯商會できる。(点灯料は三分心一灯一か月三十六銭、五分心一灯三十九銭)4月元総社村で隔離病舎建設。5月県令第二十九号遊病院および患者隔離所設備規則で南橋村役場西に隔離所できる。6月十八年の架橋老朽につき新しく現利根橋の旧橋(現在の位置)架設。9月芳賀村、下川淵

村その他各村に農會を設立。12月市営の遊病院を二毛村(現二毛の地)に建設移転する。滞納矯正のため各区で納税者の合會を開く。共同便所を始めて設置。連雀、横山、小柳堅町(立川町曲角)紺屋町の五か所。明治29年(一八九六) 1月群馬憲兵分遣隊首部、前橋憲兵屯所曲輪町に設置。4月1日郡名改正により、南勢多と東群馬合併して勢多郡となる。4月18日市農會(農業協同組合の前身)発会。7月22日利根橋流失。11月1日前橋収税署、税務署となる。(北曲輪町にあり)12月1日前橋測候所開所(當時は県立)。前橋商議會創立。

諏訪町に馬市場ひらく

明治30年(一八九七) 5月8日立川町から出火、二九〇戸焼失。5月直徑一寸位の降雹あり桑園の被害甚大。5月嶺小学校新築校舎竣工。桂置村隔離病舎建設。7月本町に前橋少年音楽隊組織される。11月諏訪町に馬市場開設。12月25日敷島小学校向町から国領の新校舎に移転。このころ俳句団体いなのめ会組織される。當時俳句をはじめ漢詩、和歌の団体結社が市内各所にできる。

明治31年(一八九八) 3月22日前橋商議會を前橋商業會議所と改称。田中町に劇場歌舞伎座創立。4月1日群馬県尋常師範学校を群馬県立師範学校と改称。4月第三回市会議員選挙(定員三十名の半数改選、有権者数一、四六二名)。5月12日午後三時向町から出火全焼六三戸、半焼一戸、神明町二三戸全焼、前代田町串田製糸所、北曲輪町一戸、向町雷電神社焼失。6月9日前橋の第三十九国立銀行は国立銀行廃止のため株式会社第三十九銀行となる。6月19日紺屋



初期の前橋商業會議所(紺屋町)

町に青果市場開設。10月20日師範学校付属校跡(県庁前)に群馬県物産陳列館を開校。11月11日第三代市長笹谷元就任(明治35年5月9日まで)。12月25日立川小学校片貝町から芳賀新校舎(元市立女子高)に移転。このころ各町に青年會組織される。

利根橋下初の鉄橋に

明治32年(一八九九) 4月中学校令発布により群馬県尋常中学校は群馬県中学校となる市立学校に校医を設置。6月利根橋(旧利根橋)を架設(一般通行用)本県最初の鉄橋。11月15日群馬新聞開刊。行路病人および旅行死亡の取り扱いははじめる。

清掃事業を開始

明治33年(一九〇〇) 5月16日市で衛生事務所を設け、掃除監督長等をおき委託事業として清掃事業を開始(これは汚物掃除法発布前のこと)。産業組合法が布かれ各町村に産業組合ができる。群馬県中学校を群馬県前橋中学校と改称。5月上野教育會圖書館曲輪町(現市庁舎の場所)に開設。

明治34年(一九〇一) 3月芳賀村小坂子、鳥取、端氣、勝沢、桂置村下沖、上泉、石岡、東片貝、西片貝、三俣、木瀬村野中、上川淵村後閑、下川淵村亀里等の有志が赤城山国有林緑松林下げ運動を開始。4月1日勢多郡上川淵村のうち六供、天川原、市之坪、宗甫分、前代田、紅葉分の各一部は二十二年町制時に編入、市域一平方キロとなる。4月1日第四回市会議員選挙(定員三十名、半数を改選)4月1日県立農事試験場を前代田に移転(後江木町に移転)。

群馬県前橋中学校を群馬県立前橋中学校と改称。愛国婦人會群馬支部誕生。明治35年(一九〇二) 4月群馬県立女子師範学校清王寺(現群馬大学芸学部の前身で付属小の場所)に開校、付属小と幼稚園を併設する。4月南橋村細井小学校新築、現在地に移転。5月30日7月4日大正天皇(皇太子当時)東北へ旅行の途次臨江閣にお泊り。6月13日第四代市長稲葉秀作就任(明治43年1月14日まで)7月24日木下尚江前橋市より代議士選に立つ、翌日俠客の親分関口文七の妨害にあう(このとき幸徳秋水ら来援する)。8月1日前橋電話交換局設置。8月小暮、嶺勝沢、皆沢新田四か村連合で嶺村に赤城小学校を創立。11月11日詩人湖太郎晩年の発起で「新声」の誌友會を栗水園で開催。清掃事業を市直営とし人夫を雇う。総社町で公衆電話の利用ははじまる。

消防用蒸気ポンプ購入

馬が引いて火事場へ急ぐ

明治37年(一九〇四) 4月1日既橋高等小学校を二分し、既橋西高等小学校(神明幼稚園の地)と既橋東高等小学校(芳町現中川小)が置かれた。4月第五回市会議員選挙(定員三十名、半数改選)。5月消防用蒸気ポンプ一台購入。東京以北では当市と新潟市だけであった(當時は馬で引き火をたいて蒸気を起しつつ現場にかけた)。8月12日与謝野鉄幹、石井柏亭ら一行六名赤城へ登山、滞在中の高村光太郎前橋駅まで出迎える。日露戦争開戦のため増税行なわれる。

天川に共同墓地つくる

明治38年(一九〇五) 1月8日立川町敷島座(元電氣館東)から出火、同座焼失する。死者一七名、負傷者二百名を出す。この年の夏利根川に吾妻の毒水落下のため魚の被害多し。9月天川に共同墓地を設置。12月8日公園設置を市会で議決。上野教育會訓育所を開設(首、ろう学校の前身)。市営幼稚園を廃止。

明治39年(一九〇六) 4月1日久留万尋常小学校前代田(現中央小の場所)に開校。4月木瀬村農會できる。野中新道開通(新町から木瀬、荒砥に向う道)。5月9・10日尚武會で彰忠碑を公園に建立。納税組合設置運動を起し完納を勧める(このため宇都宮税務監督局長から市が表彰された)。

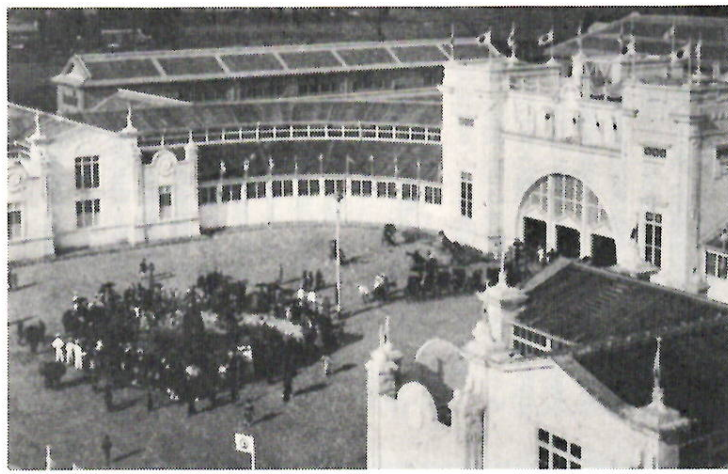
明治40年(一九〇七) 3月21日前橋市医師會設立。4月第六回市会議員選挙(定員三十名、半数改選)。8月5日製糸功労者旧藩士深沢雄象逝く。10月13日赤城館事件起こる。この年各町でも神社の整理行なわれる。

明治41年(一九〇八) 4月1日勢多郡立勢多農林学校を設立。10月5日前橋キリスト教婦人會発起運動の陳情書を県知事に提出。10月市内の土葬を禁止。11月13日19日大正天皇(皇太子時代)演習台覧のため臨江閣にお泊り。県庁の土手上に既橋城址碑の建設。臨江閣を買収して市有とする。(現在の中央公民館)



共進会当時の市内の装い (市章のついた旗をたてる)

明治43年の一府十四県連合共進会会場正門



市の紋章「輪貫」と決める
明治42年(一九〇九)5月25日利根電機株式
会社設立。9月20日臨江閣の別館として貴
賓館建設に着手。11月清里村納税と教育の
成績良好をもって県より自治旗を受ける。
市参事会において市の紋章を「輪貫」と決
める。市税戸数割を廃止し家屋税を実施。



明治43年市内電車が開通 (旧琴平町付近)

明治44年(一九一〇)1月10日県会議事堂焼
失。1月29日市内の村名(国領村、清王寺
村、一毛村、天川村、岩神村)を改めて町
とする。2月28日第五代市長に江原桂三郎
(先代)就任(明治44年9月20日まで)第
七回市議員選挙(定員三十名、半数改
選)4月25日市立前橋高等女学校(現県女
高)堀川町に建設(現東電のころ)。4
月総社地区最初のクロコ玩具細工を開始。
5月22日前橋税務署駅前通りに移転。8月
15日臨江閣別館としての貴賓館竣工(二階
建二七坪工費二八、二八〇、現中央公民
館)。9月17日、21日一府十四県(東京、神
奈川、新潟、埼玉、長野、千葉、茨城、栃
木、山梨、福島、宮城、山形、岩手、青森
群馬)連合共進会を本市で開催。前橋の躍
進発展はこの大共進会が契機となった。10
月25日市政、産業の大功労者初代市長下村
善太郎翁の銅像を公園に建設。11月1日、
11日馬匹共進会開催(現県立高の地)。11月
3日帝國在郷軍人会前橋分会が発表。12月
4日前橋II渋川間電車開通。電柱税新設
(一本一円五十銭)市中一般に電灯がつ
く。

一府十四県連合 大共進会を開催

市内にいったいに電灯ともる

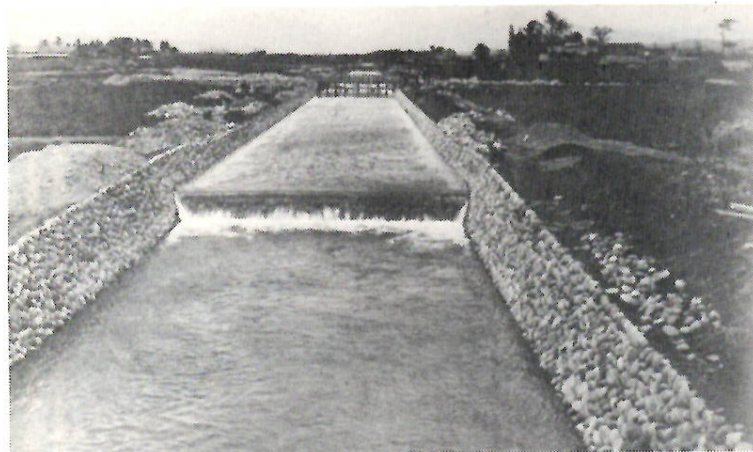
明治45年・大正元年(一九一〇)3月23日
前橋中学校卒業生千人が大祝賀提灯行列を行
なう。4月1日市立前橋高等女学校創立と
なる。ガス会社創立。この頃は専ら灯火用。
この頃市内に自転車が目立つ、専ら舶来。
7月30日明治天皇崩御、年号が大正と改元。
9月12日正規の就学困難者のため特別教授
を開始、小坂子に分校場を置く。

大正時代

舶来自転車が行く



北部耕地整理施行前の広瀬川の流れ (岩神町地内)



北部耕地整理施行当時の広瀬川 (岩神町地内)

大正2年(一九一三)3月11日群馬県第一師
範学校付属小学校の代用を解く。3月23日
日本赤十字社群馬支部病院を新町に設立。
3月県立高等女学校堀川町から紅雲町の現
在地に移転。市議員総選挙(明治44年市
制改正による)市内各学校の高等科を集め
て久留万高等小学校(現中央小)とし、他は
全部尋常小学校となる。6月14日六代市長

自動車市内に現われる

大正5年(一九一六)3月7日第一回納税組
合表形式。4月1日大正天皇御即位記念と
して市立図書館を建設。開館(現消防署の
西)。6月北部一帯の耕地整理の測量を開
始。南橋村荒牧で水車によって押麦の製造
始まる(押麦製造のはじめ)このころ市内
に自動車現われる。

市内に活動写真館

大正6年(一九一七)4月1日公園内に「明
治記念碑」建設。4月市議会議員選挙(有権
者一、九七五人)7月19日公園下河原におい
て米人アイトミスが曲乗飛行を行なう。
初めて映画館(前橋活動写真館)ができる。
8月2日上水道布設の建議市議会で審議。
これが本市上水道の端緒。

商業会議所本町に落成

大正7年(一九一八)3月6日上越鉄道前橋
委員会を設置。当時の計画は高崎から渋川
に直行するものであったがこの運動によつ
て新前橋駅を設け本市を経由することとな
った。3月北部耕地整理事業に着手。4月
商業会議所本町に新築落成。4月芳賀村役
場勝沢に竣工。6月前橋市青年団生まれ
(小学校区域ごとに分団)11月1日三九銀
行上毛物産銀行と合併し、群馬銀行創立。
11月2日上野毎日新聞発刊(平井晩村が主
筆となる)11月24日大戦と平和の兆を認
め市民祝賀提灯行列。この年来高騰し全
国的に米騒動起る。
大正8年(一九一九)1月6日市道としての
大渡橋の工事に着手。4月9日県立前橋中
学校(紅雲町)寄宿舎焼失。6月28日歐洲平
和の官民合同祝賀大会ならびに提灯行列。
9月2日郷土の詩人平井晩村前橋で逝く
(公民館下公園に詩碑・天川公園に墓碑が
ある)三六歳。9月13日、16日台風で県下
全域に被害。市農会の経営により米穀、野
菜、日用品の公設市場が出現(現電報電話局
の北)。10月20日木村市長シベリヤ駐屯中
の郷土部隊慰問に出発。12月1日帰郷。生
糸の全盛期で文字どおり煙突林立する。

はじめて市営住宅建設

大正9年(一九二〇)3月大和劇場できる。こ
のころ才川に厩橋劇場できる。4月26日市
立前橋商業学校神町に開校(県立前橋商
高の前身)5月6日市医設置。5月13日教員
小学校園領から萩町の現在地新校舎に移
転。6月10日第一回時の記念日宣伝行なわ
れる。8月29日伊香保大火に前橋消防組も
出場。9月4日旋風のため宗甫分全潰十
一戸。木瀬村野中では午後五時二十分頃豪
雨とともに旋風襲来、全半潰十六戸二八棟、
即死一、重軽傷者十五名を出す。10月1日
第一回国勢調査。11月8日県議会議事堂落成。
前橋市教育会が市公園に水泳場を設置。
(競輪場南の広場付近)経済界好況で住宅
不足のため初めて市営住宅六〇戸を建設、
以後毎年建設する。市主催の家畜共進会を
開催。県立農業試験場(岩神町)構内に群馬
県種畜場を創設。

上越線・大渡橋が開通

大正10年(一九二一)2月21日赤城社北曲
輪町搾乳所跡を市で買収し公園とする。4
月第十回市議員選挙三〇名から三六名と
なる。4月1日利根電機株式会社東京電灯
株式会社に合併。4月1日総社町に県蚕業
試験場分場発足。4月青年団の組織を

改め東西南北の四部の団と、市に連合青年団を置く。7月1日高崎、渋川間上越鉄道開通。7月1日上越線開通により新前橋駅、群馬総社駅開設。7月総社町山王院寺の心礎発掘される。8月林間学校を小出河原に開設。10月13日大渡橋開通式。市の建設で工費二万一千七百七十円、県下随一の長い大橋で、この種の橋では初めての鋼鉄鉄筋コンクリートである。11月4日市営の職業紹介所開設(現県公共職業安定所の前身)市営浴場を開設。

大正11年(一九二二) 4月私立幼稚園市営となり市立神明幼稚園、片貝幼稚園を新設(戦災により廃止、神明は昭和二八年復活) 4月1日岩神の群馬県繊維工業原料検定所を群馬県前橋工業試験場とする。5月15日芳賀村で勝沢、小神明、端気、五代、鳥取、小坂子の各地合同して高崎の鳥川電灯株式会社と契約してランプから電灯となる。8月20日前橋警察署曲輪町(現郵便局の場所)から田中町(旧税務署の北)に移転。8月23日25日台風のため県下全域に被害。10月前橋監獄を前橋刑務所と改称。市主催畜産共進会開催。前橋婦人会誕生。愛国婦人会保育所を芳町に設置。敷島公園官有地の私下げをうけ郊外公園とする。

関東大震災に市で救援隊

大正12年(一九二三) 4月1日城南小学校、市之坪(現前商高の地)に建設。5月11日市立前橋工業学校開校(現三中の場所) 9月1日関東大震災に市から救援隊派遣。10月16日南部地整理組合を設立。各小学校に少年赤十字団を設ける。12月16日芳賀村嶺において自家発電(六馬力)タービン式発電で全部落点点灯。

八間道路・五間道路が開通

山車を出して祝賀

大正13年(一九二四) 3月六日に友愛会生まれる(女子青年団のはじめ) 5月1日秋小路を萩町と改称。7月メートル法実施。7月22日桂萱村役場庁舎竣工。10月10日東西二間道路として八間道路(商工会議所西通り)と五間道路(桑原病院から向町に通ずる)開通、山車を出して祝賀を行なう。前橋工業学校校舎新築、試験場から移る。前橋幼稚園を設立。県の種畜場分場を岩神に開設。

大正14年(一九二五) 3月駅前十二間道路開通。4月市議会議員選挙。5月13日総社町で大火、三十戸が焼失。6月16日第八代市長竹内勝蔵就任(昭和6年10月26日まで) 9月方面委員(民生委員の前身)制度を実施。10月30日郊外公園を懸賞公募によって

「敷島公園」と命名。このころまで利根川に筏流しが行なわれた。筏は木材・竹材で下流の上宮、妻沼、銚子、東京などに運ばれ、大渡から東京まで約一週間を要し、竹は野田の醤油樽のタガに使われた。この頃から火災急報に一一九番の電話を用いる。

昭和時代へ

大正15年・昭和元年(一九二六) 4月霜害県下一円におよぶ。5月18日臨時水道部を新設、職制を定めた。倉田秋郎句碑敷島公園に建設。7月1日市立各小学校(桃井・中川・敷島・久留万・城南)に青年訓練所を併設。8月29日県庁舎新築起工、このため旧藩邸の書院であった旧庁舎を撤去、城址表通りの土手を崩し濠を埋める。普通選挙となる。10月10日上野国分寺跡国の史跡に指定。12月15日大正天皇崩御、年号を昭和と改元。

昭和2年(一九二七) 1月22日上水道起工式を行なう。3月3日県立盲啞学校創立(現在の盲学校の地。私立前橋盲学校、桐生盲学校、高崎ろうあ学校を統合) 4月1日城東小学校新築。天川二子山古墳、総社二子山古墳、史跡に指定される。8月市消防団にはじめて自動車ポンプ二台購入。敷島公園に市営野球場をつくる(22年水害で流去) 昭和3年(一九二八) 11月都市計画法適用都市となる。2月7日総社町の山王塔址史跡に指定。各市町村の青年会を青年団と改称。4月9日県庁舎新築落成式(現在の県庁) 5月前橋商業会議所を前橋商工会議所と改める。8月17日芳賀善勝寺の鉄造阿彌陀如来座像重要文化財に指定。10月14日師範学校付属小焼失。10月7・8日台風被害。10月21日上毛電鉄前橋二桐生間電車開通。11月10日今上天皇即位式御大典市民奉祝提灯行列。前橋積善会で前代田に精神病院を建設(11年江木町の現在地に移る)。

敷島浄水場できる

—工費261万円で—

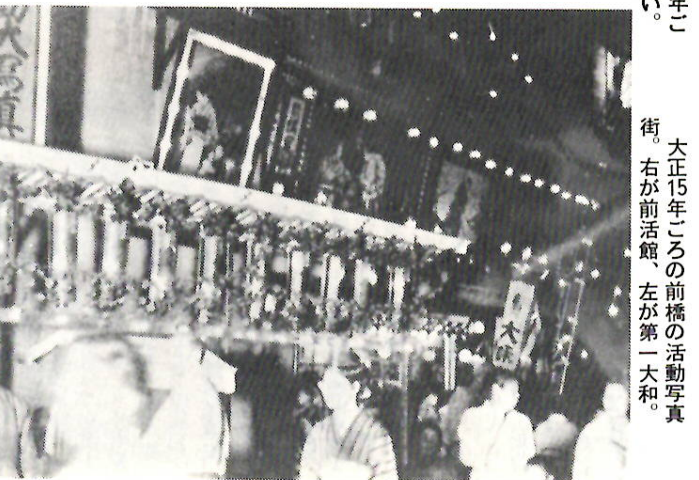
昭和4年(一九一九) 3月敷島小学校焼失。火、二戸を焼失。4月市議会議員選挙(有権者二二、二八〇人)市立高等家政女学校を芳町の商業学校跡に開校。9月1日敷島小学校落成。12月26日広瀬川電力会社創立。



開通当時の久留万橋通り(上毛電鉄のできる前、大正13年)



電車が通っていた頃の町通り。昭和16年ごろ、人通りもまばら、自動車は全く見られない。



大正15年ごろの前橋の活動写真街。右が前活館、左が第一大和。

昭和5年(一九三〇) 2月榎町で大火、七九戸焼失。4月消防組に常置消防を設ける。上小出に県水産試験場できる。11月29日御大札記念として群馬会館落成。前橋市体育協会創立。連雀町児童遊園できる。

昭和6年(一九三一) 4月から小学校に歯科医をおく。7月総社町山王の畑の中から旧重要文化財の石製磨尾を発見。9月2日郷土詩人平井晩村の民謡碑を建てる。9月1日上越線全通。群馬中央銀行を群馬銀行と改称(現群馬の前身) 11月7日第九代市長田中福一就任(昭和8年12月9日まで) 昭和7年(一九三二) 8月測候所できる。10月22日市主催ではじめて防空訓練。市方面事業助成会で公益質屋前橋質舗を開設。

市道に初の簡易舗装

昭和8年(一九三三) 4月市金庫制度を実施。群馬大同銀行に事務所をとりあつかわせる。木瀬駒形小学校に増田小学校を合併。4月3日榎町で大火、二〇戸焼失。市議会議員選挙。市道にはじめて簡易舗装工事開始。東京電灯前橋発電所上小出町につくる。12月24日第十代市長長原桂三郎就任(昭和16年12月23日まで)。

昭和9年(一九三四) 4月市立前橋商業学校を県立に移管。5月下川淵一帯に鷲卵大の降雷。8月県立前橋中学校紅雲町から天川原の現在地に移る。11月10日18日陸軍特別大演習・天皇地方行幸で県庁にお泊り。12月勢多会館落成。

昭和10年(一九三五) 4月1日若宮小学校創立。7月総社町山王で庵寺塔心柱根巻石を発見。10月前橋婦人会解散。翌年国防婦人会となる。10月24日榎町で火災一四戸焼失。

昭和11年(一九三六) 7月北部耕地整理組合事業完了で解散。防護団を組織し、防空演習を実施。

昭和12年(一九三七) 2月24日教育会館できる。4月市議会議員選挙。県立醸造試験場創立。県立商検定所設立。9月市立前橋工業学校県立に移管。防空法により防空規程をつくる。11月19日榎町で二五戸焼失。

昭和13年(一九三八) 5月敷島公園で市営貸ボート開始。12月岩神の飛石天然記念物に指定。前橋放送局、戦争のため放送施設を大陸に転用、このため地方放送を廃止。非常時態勢により市に厚生課を新設、防塵団防空本部軍事援護相談所などを設け灯火管制規則が出された。

昭和14年(一九三九) 4月消防組を警防団とする(総員八八〇人、六部制) 9月物産引上禁止の統制令公布、公定価格となり米穀の県外移出を禁止。10月18日地代家賃統制令公布。11月1日県立前橋測候所国立に。11月18日市内の電話、自動交換となる。天川原に中島飛行機前橋工場(現在のダイハツ)できる。

昭和15年(一九四〇) 2月政府買上米以外の県内取引を禁止。桃川小学校新校舎、日輪寺にできる。5月米穀券を発行。7月6日米穀の配給制度を実施。砂糖、塩についても購入券を発行、配給制となる。7月中川小にプールできる。10月県内上州群馬その他各新聞が上毛新聞に合同。

大東亜戦争に突入

昭和16年(一九四一) 1月12日榎町で二二戸焼ける。4月1日市内各小学校、国民学校となる。連隊区司令部高崎から前橋に移り

前橋隊区司令部となる(市で敷地提供) 10月陸軍士官学校北群馬郡桃井村に設置。11月13日市制施行五十周年記念式を挙行。市に農地委員会を設ける。12月8日対米宣戦布告、大東亜戦争に突入。

昭和17年(一九四二) 2月23日第十一代市長堀康雄就任(昭和21年11月13日まで) 4月18日太平洋戦争初の警戒警報・空襲警報発令。5月11日郷土の詩人萩原朔太郎東京で逝く、五七歳。6月市議会議員選挙(有権者一五、五三〇人)城東、城南両国民学校にプール建設。衣料切符制となる。

昭和18年(一九四三) 4月1日市立家政女学校を前橋高等女学校と改称。市営結婚相談所を開設する。5月10日前橋医学専門学校開校(群馬大学の前身)。7月町内会規定により区長は町内会長を兼ねる。7月14日小柳町柳座焼失。9月10日大渡橋のかけ替え完成(一部は現在のもの) 10月妙安寺の宸翰等重要美術品に指定。11月市営墓地として亀泉霊園できる。敷島、桃井国民学校にプールを建設。群馬県師範学校と女子師範学校を合わせて群馬師範学校とし、従来の県立が国立となる。農地譲渡制限規則できる。

昭和19年(一九四四) 3月15日東京営林局疎開して岩神に開局(現在の前橋営林局の前身) 3月31日戦力増強のため農業団体法により国・県・市町村にわたり農会と産業組合を統合し農業会発足。4月1日前橋衛生協会経営の消毒所市営となる。7月大正用水工事農地開発営団により着工。日本銀行前橋支店(横山町)開設。全国各中学校、専門学校、大学に学徒動員の命くだる。11月14日総社町宝塔山古墳史跡指定。

戦災で 市街地八割焼失

一面の廃墟に



11,518戸を焼失、死傷者1,235人。焼けた市街。

昭和20年(一九四五) 1月16日群馬県師範学校本校舎全焼。2月アルミ貨を錫貨と紙幣に引換え、貴金属の回収、供出が行なわれ

次いで火薬の原料木綿、ヒマ、ドングリ、桑の皮、棕呂皮、女の髪の毛まで供出。3月6日芳賀郵便局新設。4月市立産婦人科病院を神明町に開院。空襲必至の情勢によって郊外に疎開するもの多い。6、7月米軍B29・艦載機による空襲、群馬地方に烈しさを増す。上小出地内で進行中の東武電車米機の機銃掃射に遭う。8月5日B29の来襲(92機と推定)により市街地の八割が焼失と化す。家屋の全半焼一万一千五百十八戸。死者五百三十五人、負傷六百人、損害総額は当時の金で三億五千万円といわれる。中川・若宮・久留方・前工・前女なども焼失。8月15日終戦により占領軍政下に入る。占領軍の命により青年団その他各種団体解散。10月米進駐軍のジープ市内を走る。11月米軍当市進駐、その歓迎会を市立高等女学校で開催。米国歩兵第九師団第三八七聯隊第七軍政本部(群馬軍政本部)が前橋聯隊司令部跡(元財務部庁舎)に設けられ、中島第一工場(現ダイハツ)が米軍キャンプとなる。

槌音たくましく

戦災復興事業に 着手する

昭和21年(一九四六) 3月25日天皇陛下下野、復興状況視察のため本市に行幸。4月桃井



旧前橋消防署、昭和34年消防会館新築で取りこわす。



昭和29年当時の市の町なみ(現在の郵便局前通り付近)

敷島、城南、城東の各校と市立高等女学校に保育園を付設。4月10日衆議院議員選挙婦人に選挙権が与えられる。6月21、23日榎町、横山町、桑町の三町合同で戦災復興祭。7月1日戦災復興特別都市計画の起工式が行なわれ「戦災復興事業」に着手。10月市選挙管理委員会を設置。10月9日戦災復興のため国の特別都市計画市に指定される。12月方面委員を民生委員と改称。第一回農地委員の選挙を行ない委員(定員15名)発足。自作農創設特別措置法公布、農地解放を断行する。母親学級を開設。方面事業助成会等を廃止、前橋市社会福祉事業協議会を組織。11月11日婦人警察官誕生。

昭和22年(一九四七) 3月青年学校が廃止。3月13日久留方国民学校を廃止。新学制発布により国民学校を再び小学校と改称。新制中学が誕生。小学校六年、中学校三年、高校三年、大学四年となる。4月1日第一、第二、第三中学校新設。いずれも仮校舎で開校。4月19日総社中学校開校。4月1日上越線高崎II水上開電化される。4月5日公道による初の知事・市長選挙、市長に関口志行当選(第二、33年5月13日まで)

4月20日新憲法後初の参議院議員選挙。25日衆議院議員選挙。30日市議会議員選挙、市会に初めて婦人議員二名当選。9月14、15日有史以来といわれるキャスリン台風来襲市内の被害甚大。利根川が大洪水のため川原の堤防決壊。大渡橋と東端の三軒を流失。11月前橋都市計画協議会発足。肥料は肥料会社から配給。

昭和23年(一九四八) 1月29日新警察法に基づき自治体警察を設置、市公安委員会できる。3月7日前橋市警察署発足。3月21日東村農協創立。4月1日市立高等女学校新学制

により市立女子高等学校となる。県立各学校も同様。6月台風により決壊した川原の護岸工事に着手。7月市役所は臨江閣を本庁とし曲輪町旧庁舎を分室とする。8月現在の中央小のところに第一中学校校舎が落成。9月15日アイオン台風のため再び利根川が増水、各地に被害、敷島球場流失。芳賀小金丸分校独立して開校。10月赤い羽根共同募金はじまる。この年、芳賀・総社など農業協同組合も設立。

昭和24年(一九四九) 1月市勢展示会開催。4月群馬師範学校は群馬大学学芸学部となる。4月10日芳賀国民健康保険組合を設置し診療所を開設。5月20日成人の日設定により市で第一回成人祝を実施。5月21日敷島公園市営野球場流失のため前橋公園を野球場に転用、記念野球場大会ひらく。5月31日第三中学校校舎落成。7月八幡山古墳が史跡に指定。7月大学付属病院構内に市伝染病院新設。9月前橋市自治警察庁舎が竣工。通産省から市が重要木工製品工場指定地区に指定される。臨江閣に茶室棟を建てる。

昭和25年(一九五〇) 2月7日上川淵、木瀬桂堂、南橋、東、元総社、総社の各町村長等と前橋市との第一回懇談会をひらき、大前橋建設協議会を提出。3月芳賀中学校を新築。3月25日快速列車あかき、わたらせ号運転開始。4月1日第一、第二、第三、神明の四保育所開設。4月大正用水事業県営となる。4月23日30日第一回市営競輪を開催。4月23日市広報第一号を発行。5月市営公益質屋を開設。6月16日力田遺愛の碑景指定史跡となる。7月「市民の集い」をひらく。9月15日市営藤井焼却場亀泉に竣工。10月第一回商工祭ひらく。10月13日第一回成人学校開催。学校給食を完全給食で

実施。12月芳賀地区にはじめて定期バスが開通。

昭和26年(一九五一) 3月22日第二中学校校舎落成。4月1日戦時中からの主食配給所が国民小売業者の登録により配給が行なわれた。4月4日天皇・皇后両陛下赤城で記念植樹。4月26日総社町高井、石田支主の墓、県の指定史跡となる。市議会議員の選挙。6月19日上原の郷倉、県の指定史跡、日輪寺の十一面観世音像、県の重要文化財に指定。7月20日農業委員会発足。10月8日監査委員を設置。前代田、市之坪、宗甫分、天川原をいづれも町とする。10月1日市に福祉事務所を置く。市立高体育館(旧芳賀)を新設。戦後初の戦災軍人軍属合同慰霊祭挙行。市立城南母子寮を前代田町に設立。前橋母子会生まれる。

市立工業短大を開校
市教育委員会が発足

昭和27年(一九五二) 1月20日貿易会館が落成。3月8日芳賀小学校焼失。4月8日天川小学校新設。4月霊柩車の民営を市営とする。6月8日市立工業短期大学を設立。7月24日前橋乾輪取引所が開設。8月芳賀小学校新校舎を再建。10月15日南橋役場庁舎落成。11月1日市教育委員会発足。12月22日前橋高校校舎焼失。商店街のネオン灯に市で補助金。

昭和28年(一九五三) 1月25日市内東武電車運転休止(駅間萩町間)。2月1日NHKテレビジョン本放送開始。市内の聴取者一名。4月1日消防本部、消防署を新設。消防団の常備消防は廃止。4月8日岩神小学校開校。神明保育所を幼稚園とし若宮小学校に幼稚園を付設。第四保育所を新設。5月27日一毛町で火災、二戸焼失。9月前橋公園の野球場を廃し広場を市民に開放。10月14日群馬大橋開通。10月19日周辺町村に対し四月一日を目標に合併を申し入れる。12月前橋駅に市の特産土産品陳列所を設ける。県立図書館落成。

昭和29年(一九五四) 2月1日町村合併に備え国民健康保険開始準備事務局を設置。2月8日芳賀小金丸分校新築。2月29日南橋市内の電車廃止。3月30日芳賀村解散式。31日総社町、東村解散式。4月1日上川淵・下川淵・芳賀・桂堂・東・元総社・総社の七か町村を合併。町村合併促進法に基づく県内町村合併第一号である。この日、合併

式を群馬会館で挙行。4月水道部を市役所機構から独立。5月1日駐在員制度を廃止区長制度とする。7月市警察を廃し県警となる。7月12日新市庁舎落成。7月26日関東で最初の真空吸上式小型トラック車購入。市に農政部を新設。9月1日南橋村合併。10月1日から市制施行六十周年・市庁舎落成・町村合併を記念して前橋グランドフェアー(大共進会)を開催。現在の中央児童遊園はその第二会場であった。

昭和30年(一九五五) 1月立川町妙安寺の梵鐘県の指定重要文化財となる。1月20日清里村、新高尾の一部を合併。4月1日前橋市公民館を設け臨江閣・別館を当てる。4月1日勢多郡木瀬村の六大字を編入。5月11日朝太郎詩碑を敷島公園に建立。7月18日市役所に全面部制を実施。8月全国的の現象ながら前年から市財政窮乏を告げ滞納累増につき関口市長納税完遂を市民に訴える。8月20日市結核病棟群大構内に設置。9月3日市で設置費を負担、無人駅東前橋駅を新設。

市立図書館落成・創立40周年祝賀

昭和31年(一九五六) 1月24日市観光協会で大前橋音頭・空っ風ぶしを新作。2月から新市域の市政座談会を開催。3月4日群馬大学付属病院院舎火災。7月下川淵公民館改築落成。7月第一中学校校舎落成、前代田町から移る(現中央小)。8月2、4日全日本排球高校女子選手権大会本市で開催。市立図書館落成、曲輪町から移り創立四十周年祝賀式。12月芳賀中学校新築落成。市営住宅江木団地を設ける。元総社簡易水道が完成。

昭和32年(一九五七) 3月17日群馬大学付属病院大火(連続三回)。3月31日前橋一東京間の電話即時通話となる。桂堂小学校校舎分校舎完成。4月1日中央小学校新設。5月1日上川淵小学校増築完成。5月13日元総社中学校三階建て鉄筋校舎完成。城東土地区画整理事業を施行。7月図書館で自動車文庫、新市域を巡回。8月31日江木簡易水道完成。10月1日消防署に救急車を備える。12月1日前橋駅に電車乗り入れ実現、上野前橋間湘南型電車走る。

昭和33年(一九五八) 本町を中心に1月30日から3月5日まで前後12回にわたり毎夜のように放火があり市民をおびえさせたが犯人捕えられ。4月30日永明地区合併により永明中学校を新設開校。5月22日衆議院議員選挙、最高裁判官国民審査行なわれる。7月8日農業協力会発足。7月12日市立選挙、市議選行なわれる。7月13日十三代市長に石井繁九当選、就任。8月23日赤城山頂に無線中継で電話開通。9月15日八五歳以上の高齢者に敬老年金を支給。10月1日国民健康保険を旧市域に実施し市民皆健康となる。

大前橋へスタート

七町村を合併し新市庁舎 建設・グランドフェアー 開く

昭和29年(一九五四) 2月1日町村合併に備え国民健康保険開始準備事務局を設置。2月8日芳賀小金丸分校新築。2月29日南橋市内の電車廃止。3月30日芳賀村解散式。31日総社町、東村解散式。4月1日上川淵・下川淵・芳賀・桂堂・東・元総社・総社の七か町村を合併。町村合併促進法に基づく県内町村合併第一号である。この日、合併

消防会館が落成

六供衛生処理場・愛の鐘などもできる

昭和34年(一九五九) 2月8日群馬大学学芸学部記念館焼失。3月1日下長磯の人物形指定の重要文化財となる。3月31日元総社中学校(第三期)工事竣工。4月10日皇太子御成婚記念に名称を公募、前橋公園「さちの池」命名。5月5日郷土の詩人萩原恭次郎詩碑群馬大橋西側に建設。5月12日新前橋電車区開設。6月23日相馬ヶ原の米軍引きあげ自衛隊が入り駐屯部隊の開庁式。7月1日衛生処理場業務開始(六供町に工費一億一千万円)。8月13日18日全日本軟式野球大会敷島球場で開く。8月26日30日天皇賜杯全日本バレーボール大会敷島公園で開く。10月5日愛の鐘貿易会館屋上に完成。11月11日明治17年再建の鐘楼(消防署)取り壊される。消防会館落成。12月5日朝鮮人帰国開始記念、さちの池畔に記念植樹。

戦災復興事業を完了

10月完工式を挙げる

昭和35年(一九六〇) 2月9日国民年金実施第一回証書交付。3月10日前橋上野間あかぎ号運転開始。4月1日勢多郡城南村の二大字・佐波郡玉村町の四大字を編入。4月7日東保育所の改築と芳賀保育所の新築完成。4月16日工場誘致のため前橋産業開発会社設立。4月28日細井小学校鉄筋校舎落成。4月30日総社小学校鉄筋校舎落成。5月15日市立女子高等学校新校舎第三期で完成。6月15日前橋工業団地造成組合を設立。6月24日第一回市民と市政を話し合う会を開催。8月27日さちの池の噴水で開く。10月13日戦災復興事業完工式を公民館で挙げる、この事業をほぼ完了する。

市民プールできる

水道会館も竣工

昭和36年(一九六一) 3月4日工業団地造成につき三号団地の鳥羽町で離農式。3月8日南部、城東地区区画整理完了。3月30日水道会館落成。4月15日19日前橋市郷土史展覧会を水道会館と市制七十周年を記念して同館で開催。5月1日首都圏整備法にもとづく市街地開発地域に指定。6月5日湖太郎書斎を曲輪町から桃井小校庭に移築。6月28日市民プール竣工。7月27日桃井小学校新校舎落成。10月4日赤城林間学校が落成・開校式。10月6日日本最初の機械製糸場跡(細ヶ沢町)に記念塔を建立。10月14日16日第一回前橋市発明考案展ひらく。11月4日6日郷土近代物産作家資料展を市立図書館で開く。

年間20万人の入場者でにぎわう市民プール



昭和37年(一九六二) 3月15日群馬工業専門学校開校(市立短大の施設貸与)。4月1日総社・清里中を統合、第六中学校が発足。4月20日21日前橋百貨卸見本市ひらく。6月6日南橋中体育館落成。南橋町が誕生。8月1日市民プールに夜間照明つく。城南小プール完成。8月20日清里簡易水道完成。9月10日永明公民館が落成。12月24日ゴミ焼却場亀泉町に竣工。

昭和38年(一九六三) 2月1日六供町の下水処理場運転を開始。3月5日南部有線放送が開局。4月児童遊園に噴水塔ができる。5月17日朝日が丘町が誕生。7月19日幸塚町に市営コートできる。7月26日群馬総社駅にご線橋が完成。8月全国高校剣道大会ひらく。10月15日さちの池に白鳥を放す。10月清里地区有線放送を開始。11月21日衆議院選挙・最高裁国民審査行なわれる。

昭和39年(一九六四) 2月6日第三中学校校舎。3月3日第一中学校体育館落成。4月日桂萱中学校にも体育館できる。9日住居表示審議会が発足。芳賀小・上川淵小にプール完成。4月4日上陽保育所が落成。5月桂萱保育所、南橋保育所が落成。市民相談室を開設。6月都市計画南部地区を起工。7月7日市立工業短大増築工事できる。18日第七中学校校舎が完成。8月22日26日日本高校水泳選手権大会市民プールでひらく。10月5日6日東京オリンピック聖火本市を通過。10月24日オリンピック東京大会ひらかれる。11月12日若宮幼稚園が竣工。12月前橋ビルが落成。

昭和40年(一九六五) 1月西部有線放送が開局。2月桂萱有線放送完了。3月2日第三中学校が落成。4月1日第一次新住居表示を実施。7日軽費老人ホーム寿楽園ができて。19日町村合併十周年記念式典を群馬会館で挙げる。新町区画整理事業が完成(四二七万坪、一億二千七百万円)。元総社小・桃井小にプール竣工。5月20日中川町中継ポンプ場完成、中央街が水洗便所可能区域に。芳賀公民館が改築。6月18日産業人スポーツセンターひらく。8月前橋駅前噴水塔ができる。9月新話「前橋おどり」前橋ばやし」できる。10月天川小学校増築工事、市立女子高等学校芸術館が完成。18日敷島公園につり堀池できる。12月17日赤城大鳥居が完成。

昭和41年(一九六六) 1月1日新住居表示第二次(旧市域東部13か町)を実施。1月26日石倉保育所増築。芳賀中学校校舎完成。3月5日下川淵小学校が竣工、10日第七中学校に体育館ができる。前橋警察署が新築。曲輪町から石倉町高崎・前橋バイパスわきに移動。4月25日高崎・前橋バイパスの開通式を挙げる。5月桂萱東小、清里小にプールが完成。6月14日若宮幼稚園にプールが竣工。7月13日若宮幼稚園にプールが竣工。23日市民プールで百万人目の入場者。9月24日市庁舎新館できる。9月30日赤城有料道路開通式が行なわれる。10月1日第三次住居表示(中央部32か町)実施。8日市立工業短大新校舎が上佐島町に完成。11月1日駒形幼稚園が落成。11月7日中央小学校に小学校初の体育館できる。12月5日市立養護学校が下町に完成。学校給食南橋共同調理場ができる。この年第一回市民展を開催。厚生住宅二戸青梨子町に・後閑町に二戸の市営住宅を建設。

城南村が合併

人口21万8千となる

昭和42年(一九六七) 1月31日堀之下町土地改良が竣工。2月西部第二工地区画整理事業がはじまる。3月1日2日臨時市議会が開かれ城南村との合併を可決。消防東分署が天川大鳥居町に完成。芳賀中学校体育館・元総社小学校の増築・東小学校プール・総社幼稚園などができる。5月1日城南村が合併、人口21万8千、面積一四七・三二平方キロとなる。5日敷島公園につり堀池拡張。6月下川淵小学校・永明小学校・細井小学校にプールできる。中央都市改造事業が完成。西部清掃事務所総社町に完成。9月5日10日伸びゆく前橋市政展ひらく。11月17日地方自治法施行二十周年記念式典で本市が自治大臣より表彰。北部区画整理・東北部土地改良区を起工。12月東中学校、母子福祉センターが竣工。上川淵保育所が改築。

六供清掃工場完成

六供町に新しい清掃工場ができる

昭和43年(一九六八) 1月26日総社小学校・駒形小学校にプール竣工。嶺・金丸分校の統合校舎を起工。3月荒砥中・敷島小・城東小学校に体育館できる。4月30日上川淵保育所、第五保育所が落成。6月17日嶺小学校が完成。老人福祉センターオープン。7月1日市と四町村共同で「交通災害共済」制度が発足。駒形小・総社小にプール竣工。赤城林間学校に青少年キャンプ場開設。8月22日上川淵小に体育館できる。市立工業短大増築。9月2日市庁舎一階に窓口センターが竣工。

昭和44年(一九六九) 1月27日市議会が解散され2月23日新しい市議会議員選挙が行なわれた。4月1日水道給水柱五万個をこえる。(昭和4年市に水道が敷かれてから40年目)城南地区に給水はじまる。9日後閑町の天神山古墳発掘を終り、墓抗、粘土椀を発掘白銅鏡五つ、やじり三十など百五十点を発見。6月1日天川中継ポンプ場が運転開始。10日東部環状線の舗装工事進む。8月1日20日全国高校総体本市を中心に開催。10月1日西片貝町に「こども公園」が開園。11月20日総社町に防疫事務所できる。12月17日中央大橋が起工。

市制施行80年目

市営畜場が完成

昭和45年(一九七〇) 2月3日消防西分署が大友町に落成。さちの池に棧橋と休憩所できる。3月芳賀小、永明小、養護学校に体育館が完成。清里公民館新築完成。東部地区農業構造改善事業完了(三億一千万円)大室小にプール完成。4月8日広瀬団地に県下初の団地小学校として広瀬小が開校。武道館がスポーツセンター隣りにできる。駒形小改築。5月8日元総社保育所完成。9日桃木川に八つの橋完成。6月1日大友西通り線道路開通式。総社第二保育園できる。14日市長選挙。8月中川小プール竣工。10月前橋問屋団地が完成。10月26日東片貝町に生鮮食品センターがオープン。広瀬川畔に萩原朝太郎詩碑「広瀬川」できる。

昭和46年(一九七一) 1月六供町にゴミ焼却の清掃工場ができ26日火入れ式挙げる。3月天川小・二宮小学校に体育館できる。中央小・元総社小学校が改築。4月群馬テレビ開局。4月8日大和根団地に大利根小学校が開校。総社公民館が改築。4月市街化区域・調整区域が決定。6月敷島公園内にバラ園・しょうぶ園が完成。6月19日城東小学校焼ける。7月嶺小学校にプールできる。8月「前橋市史」第一巻を発刊。広瀬小にもプール完成。9月8日桂萱東小と桃川小に体育館完成。前橋公園遊歩道線が開通。東部土地改良区が完工。関越自動車道・上武国道の路線が発表。2路線とも本市を通過。10月県民会館竣工。

市営畜場が完成、4月にオープン。



成。桃瀬小が西片貝町に開校。敷島公園に展示館ができる。4月16日桃木川畔にサイクリングロードを開通。9月人口24万人となる。10月1日市制施行八十周年記念式典を県民会館で挙げる。昭和47年(一九七二) 1月5日札幌オリンピック聖火本市を通過。1月25日東小学校焼ける。2月南部共同調理場できる。4月1日この日市制施行八十周年となる。新畜場全施設が完成。4月1日からオープン(総工費二億三千万円)。4月8日城南小新校舎落成。

市制施行80年目

市営畜場が完成

昭和47年(一九七二) 1月5日札幌オリンピック聖火本市を通過。1月25日東小学校焼ける。2月南部共同調理場できる。4月1日この日市制施行八十周年となる。新畜場全施設が完成。4月1日からオープン(総工費二億三千万円)。4月8日城南小新校舎落成。